

毛呂山町立小・中学校編成計画（案）に関する説明会 会議録	
日 時	令和6年1月10日（水） 18:30～19:40
場 所	毛呂山町中央公民館 視聴覚室
参加者等	未就学児・小学校・中学校保護者（混合） 12名
毛呂山町	高沢教育長 石田教育総務課長 土屋学校教育課長 道地教育総務課副課長 三浦学校教育課副課長 市川教育総務課庶務係長 佐藤教育総務課管理係主事補
発 言 者	内 容
石田課長	<p>毛呂山町立小・中学校学校編成計画（案）に関する説明会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。このたび教育委員会では、子どもたちにより良い学校のあり方について再検討をし、学校教育における課題、今後の児童・生徒数の推移、必要とされる教室数、既存校舎の維持管理、維持更新などの教育的環境を解決するため、最も望ましい施設形態とその時期を示す毛呂山町立小・中学校編成計画（案）を制定しました。本日の説明会は、この編成計画（案）に関しての説明会となっておりますので、よろしく願いいたします。本日の説明会でございますが、人数の把握をするために事前に参加希望者を募り確認をさせていただきました。ご協力ありがとうございます。本日、撮影及び録音につきましてはご遠慮いただきますようお願いいたします。なお、教育委員会で、この話し合いの内容をホームページなどで議事としてアップしたいと思います。そのために教育委員会の方は録音の方をさせていただきますので、ご了承を願います。それでは、毛呂山町立小・中学校編成計画（案）について説明会を開催したいと思います。最初に、教育長よりご挨拶をいただきます。</p>
高沢教育長	<p>改めまして、みなさんこんばんは。教育長の高沢でございます。開会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>まず、1月1日に発生しました能登半島地震で、尊い命を失われた方々に、心よりお悔やみ申し上げます。また被災された皆様にも、心よりお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復興ができ、普通の生活に戻れるように、私たちも、私たちができる支援をさせていただければと思います。</p> <p>本日は平日の夜ということで、お仕事帰りの方もいらっしゃると思いますが、大変ご多用の中この説明会にご出席いただきましてありがとうございます。日頃より、保護者、地域の皆様には、町内の小中学校の教育活動にご理解とご支援をいただいていることに重ねて感謝申し上げます。ありがとうございます。学校の方も実は昨日9日が3学期の始業式で、1、2、</p>

3月までの短い学期なんですけども、それぞれ進級や、また卒業を控えた学期ということで仕上げの学期になります。各学校から、昨日は元気に登校した様子を私たちも報告を受けました。また、休み中、地域の中で安心安全の見守りをいただいたことについて、改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、教育委員会では少子高齢化、また地域コミュニティの希薄、また町内の人口減少等様々な教育課題が山積する中で、子どもたちにより良い教育を提供するためには、どんな教育環境が望ましいかということで、平成の25年より検討してまいりました。町内各関係機関ですとか、あるいは地区の役員さん、また、PTA会長、学校の校長等、多くの皆さんから2回ほど提言をいただきまして、それらを基に平成30年に、教育委員会の考え方を、未来を拓く人づくり～小中一貫教育プロジェクト～基本方針としてまとめ、町のホームページ、また広報もろやま等でご案内させていただきました。現在このプロジェクト基本方針に則りまして、毛呂山の中学校区毎の3校、毛呂山中学校区と川角中学校区の3校ですね。これで9年間を見通した連続性のある教育活動を展開させていただいております。

しかし、昨年度までは大変コロナの影響が大きかったり、あるいは小学校では35人学級という人数の編成を行ったりすることで、今までの計画をちょっと見直さなければいけないということで昨年度、令和4年に毛呂山町小中学校のあり方検討委員会というのを設置しまして、委員の皆様から様々なご意見をいただきました。環境は人を作るとは言われておりますが、毛呂山の子どもたちにとっての環境は人であり、また施設・設備です。人とは、先生はもちろんですけども、ご家族の方、それから地域の皆さん、そしてそれに関わる多くの方々が人的環境になります。学校では先生がメインになって学習活動を行っておりますが、地域の方々も今、学校に入って様々な教育活動に協力して下さっております。また、施設・設備とはもちろん学校の校舎ですとか建物、教材教具等ありますけれども、学習する内容等についてもね、これも学びの環境になります。毛呂山町教育委員会の方では、子どもたちの安心安全を第一に、より良い教育環境の中で教育を充実させ、毛呂山の将来を担う子どもたちの育成を図ってまいりたいと考えております。その基本になるものが今日もちょっと説明させていただきますけども未来を拓く人づくり～小中一貫教育プロジェクト～であり、夢を持ち世界に羽ばたく毛呂山の子どもたちを育成することになります。本日はその育成に向けたこれからの小中学校の教育を行うにあたっての学校編成についての計画、毛呂山町教育委員会の考え方を説明させていただきます。画像の方も今日は用意しましたので、お手元の資料と併せてご覧になっていただいてまた後ほどご質問などを受けたいと思います。本日はどうぞよろしく願いいたします。

石田課長	<p>ありがとうございます。本日の説明会に際しまして、職員等の紹介をさせていただきます。</p> <p>～教育長、事務局の順に自己紹介～</p>
石田課長	<p>それでは、教育総務課道地副課長より説明をさせていただきます。</p>
道地副課長	<p>教育総務課の道地と申します。本日はよろしくお願ひいたします。説明に入る前に、お配りした資料の確認をさせていただきます。次第、資料、感想記入用紙となります。感想記入用紙につきましては、説明会終了後にご記入いただき、受付のカゴの方に入れていただければ幸いです。今回の説明会はお手元の資料に沿って進めさせていただきますが、資料は白黒になっております。一部見にくい部分もございますので、また資料にない部分もスクリーンに映し出しますので、画面を見ていただければ幸いです。それでは私の方から小中学校の編成計画（案）について説明させていただきます。それでは、着座にて説明させていただきます。</p> <p>初めに実施時期と施設形態についてですが、小中一貫教育の更なる充実と児童生徒のより良い教育環境を整備するために、川角中学校区におきましては施設一体型小中一貫校、毛呂山中学校区におきましては施設隣接型の小中一貫校という形で、両中学校区とも令和11年度の開設を目指すことといたしました。このような結論に至った経緯についてお話をさせていただきます。</p> <p>平成の時代から少子高齢化が社会的にも大きな課題となっていました。そのような中で、少子化に対応した学校規模の適正化は全国的に大きな課題でもあり、平成27年1月に文部科学省から公立小学校・中学校の適正規模適正配置等に関する手引きが出されております。手引きでは、「児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、切磋琢磨することを通じて1人ひとりの資質や能力を伸ばすという学校の特質を踏まえ、小中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいと考える」とされております。学級数が少ないことによる学校運営上の課題といたしましては、クラス替えが全部または一部の学年でできない、クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない、運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がってしまう、生徒指導上課題がある子どもの問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける、児童生徒から多様な発言が引き出しにくく授業展開に制約が生じる、このような学校運営上の課題が児童生徒に与える影響といたしましては、集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みやすく社会性やコミュニケーション能力が身につくに</p>

くい。児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい、教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある、切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい、進学等の際大きな集団への適用に困難を来す可能性がある、多様なものの見方や考え方・表現の仕方に触れることが難しい、多様な活躍の機会が無く多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しいなどが挙げられ、小学校では1学年2学級以上が望ましい、中学校では学校単位でございしますが、9学級以上を確保することが望ましいとされております。

それでは、子どもたちの置かれている現状について詳しく見ていきたいと思います。こちら平成27年の文部科学省の「少子化に対応した活力ある学校づくり」に関する参考資料でございますが、こちら生産年齢人口の推移となっております。赤い線が生産年齢人口、緑が高齢者人口、青が児童生徒の人口となっております。子どもの数が減少するに伴って、生産年齢の人口は減少していき、高齢者の人口は増加しています。いわゆる少子高齢化になっています。赤枠でくくってある2060年は2010年生まれ、今の13歳、現在中2の生徒が50代の時になることを示しています。こちらは共働き世帯の推移となります。昭和55年から平成25年になります。こちら青が共働き世帯となっております。共働き世帯の数が昭和から平成で急激に増えていることがわかります。平成3年・4年あたりで共働き世帯が逆転しております。こちらは現在の状況になります。先ほどの画面昭和55年とは完全に逆転していることがわかると思います。続きまして、令和2年度国勢調査の結果から、世帯数と1世帯あたりの推移を表したグラフになります。棒グラフが世帯数、赤の線が1世帯あたりの人数となっております。世帯数は増えていって、1世帯あたりの人数は減っている状況です。令和2年は1世帯あたりの人数は2.27人となっております。こちらは、児童のいる世帯の状況となります。右側の白い部分が児童のいない世帯になっていますが、児童のいる世帯数が右、児童のいる世帯数の平均児童数も減っていることがわかると思います。こちらは資料にはございませんが、家族の中で、対人関係を形成する組み合わせになります。2人家族ではもちろん1通り、3人家族では4通り、クレヨンしんちゃんのような4人家族では11通り、5人家族では26通り、サザエさんのような7人家族では120通りとなります。先ほど、児童のいる世帯の状況を確認しましたが、今の子どもたちは家族の中で対人関係を形成するのが難しくなってきました。そのため、学校において多様な人間関係を経験することが重要となります。こちらは毛呂山町の児童生徒数の推移です。児童生徒数は、昭和60年度の5,275人をピークに減少しており、今年令和5年度では1,801人となっており、ピーク時に比べると約34%まで減少しています。続きまして、こちらは児童生徒数の将来推

計です。減少してきた児童生徒数は、今後も減少していくことが推計されます。こちらは学級数と教員数となります。ちょっと見にくいんですけども、括弧内は特別支援学級数です。令和11年度以降には、光山小学校、泉野小学校が全ての学年で単学級となる見込みとなっております。また、教員数については、小学校で校長、教頭、養護教諭、事務職員を除いた担任以外の教員については光山小学校は既に1人となっております。泉野小学校は令和7年度から、川角小学校においては令和11年度から、毛呂山小学校は令和15年度から担任外は1人となる見込みとなっております。続きまして、小中学校施設の建築年度です。町の小中学校は6校ありますが、見ていただいているとおり全ての学校が建築後40年以上経過している状況です。こちらは、小中学校の改修の状況です。この中で下の赤枠内の大規模改修ですが、学校の中で工事が済んでいるのが毛呂山中学校と川角中学校になります。毛呂山小学校は体育館の大規模改修が済んでいます。今後、全ての学校を存続させるためには大規模改修が済んでいない小学校に対して全て大規模改修が必要と考えています。毛呂山町の教育をめぐる状況を説明してきましたが、児童生徒数の減少、児童生徒数の減少に伴う教職員数の減少、施設の老朽化などこれら毛呂山町の教育をとりまく課題に対して教育委員会では検討委員会を立ち上げて協議して参りました。平成25年・26年度には毛呂山町立小中学校将来構想検討委員会を立ち上げまして、学校の適正規模について提言をいただいております。小学校では各学年2クラス以上、中学校では各学年3クラス以上が望ましい。通学においては、小学校では40分以内、中学校では1時間以内、この通学40分以内というのは通学距離にするとおおむね3キロという形で提言をいただいております。続きまして、平成28年・29年度には毛呂山町学校教育環境等検討委員会において児童生徒の今後の教育環境について検証を行いました。その結果、先ほど教育長からも説明がございましたが、平成30年に未来を拓く人づくりプロジェクト基本方針を作成し、小中一貫教育に取り組んでおります。こちらは、未来を拓く人づくりプロジェクト基本方針のグランドデザインになっておりますので、後ほど資料の方を確認していただければと思います。

小中一貫教育の導入の主な狙いです。小中学校9年間の見通しを持ち、連続性のある学習活動を展開し、学力や体力の向上を図ること。また、小学校から中学校へのスムーズな移行により、中1ギャップを解消して中学校段階での学習のつまづきや不登校の解消を図ること。さらに教職員が、子どもの学びの連続性について小中学校教職員の相互理解を進め、学習指導・生徒指導等の充実・改善を図ることで更なる学習向上や不登校の解消を目指してまいります。それでは、令和3年度に小中一貫教育の取り組み

がゆずの里ケーブルテレビにて放映されましたので、それをご覧いただきたいと思います。

～ゆずの里ケーブルテレビの映像を流す～

(令和3年11月16日 川角中学校区令和3年度第1回小中一貫教育合同研修会)

今、見ていただいたのが小中一貫教育の授業の様子となりまして、毛呂山町としてはこういった形で小中一貫教育を進めているところでございます。続きまして、また説明に戻らせていただきます。

こちら令和5年1月27日に毛呂山中学校で小中一貫教育合同研修会が行われました。この日は、3時間目から毛呂山小学校の6年生が毛呂山中学校で授業を行っております。こちら5時間目の公開授業の様子です。6年1組が社会科の授業、6年2組が英語の授業を行っております。どちらも中学校の内容でしたが、授業の終わりに中学校教員から「集中して授業に取り組み、内容を理解して積極的に発言できてすごい」と褒めている場面がありました。小学生たちは目を輝かせて、自信に満ちた表情をしているのが印象的でした。また、小学生から「中学校の校舎だけど、小学校の先生がいてよかった」との感想もあったようです。小学校教員と中学校教員が同じ教室で授業を行うことは児童生徒の安心できる環境であると改めて気づかされました。続きまして、こちらは給食の時間でございます。中学生が小学生の配膳を手伝っています。中学生の思いやりの心が育っていることを感じられました。続きまして、こちらは清掃の時間になります。毛呂山中学校では清掃の時間は一切おしゃべりをしない無言清掃を行っております。無言で一生懸命に掃除をする中学生の姿を見て、6年生も同じように一生懸命掃除をしていました。こちらは、昼休みの様子になります。中学生が6年生を誘って大縄を楽しんでいました。小学生から「休み時間に中学生と遊べて楽しかった」と言っていたようです。今後もこのような交流をすることで、中学校への進学不安を軽減し小学校から中学校への滑らかな接続ができるようにしていきます。また、泉野小学校の6年生も毛呂山中学校で同じような授業を行いました。こちらは、毛呂山町小中一貫教育の義務教育9年間の捉え方です。今後も小学校6年間と中学校3年間を分けることなく、義務教育9年間を一体として捉え、小学校から中学校へ滑らかな接続を目指し、夢を持ち世界に羽ばたく毛呂山の子どもを育成するために小中一貫教育を推進して参ります。このような小中一貫教育の更なる充実と、児童生徒のより良い教育環境整備をするために先ほども一番最初に申し上げましたが、川角中学校区は施設一体型の小中一貫校、毛

呂山中学校区は施設隣接型の小中一貫校を令和11年度の開設を目指して参ります。

それでは、施設一体型・隣接型で目指す一貫教育でございますが、一体型・隣接型では小学校と中学校の教員が同じ校舎または同じ敷地のため教員同士の連携がしやすくなります。そのため、中学校教員などの乗り入れ指導などが充実し、小学校における教科担任制の更なる強化を図ることができます。また、授業や部活動などの指導内容や指導方法を共有しやすく、児童生徒の学習や成長をより効果的にサポートをすることができます。さらに、中学校には数学室や外国語室を整備し、生徒の学びたい気持ちを引き出す、後ほどまた説明させていただきますが、教科センター方式を導入し、児童生徒の学力向上を図ります。次に、児童生徒の交流についても、児童生徒の交流する機会が増え、異学年理解や協働学習が促進され、上級生は下級生に対する思いやりやリーダーシップの育成、下級生には目標にすべき身近な生徒像の具象化を図ることが期待できます。家庭・地域の交流については、会議室、コミュニティルーム、コミュニティスペースを整備し、学校が地域コミュニティの拠点となるようにして参ります。また、一体型・隣接型となるため、保護者や地域の方にとって、より効率よく学校との協働ができるものと考えられます。保護者や地域の方との交流の充実を図り、家庭・地域と一体となって児童生徒を育成して参ります。

こちらは統合年度等です。まず、川角中学校区です。川角小学校と光山小学校を統合し、川角中学校の敷地・既存校舎を利用するとともに、川角中学校敷地内に小学校校舎を増設し施設一体型の小中一貫校で令和11年度の開設を目指します。令和11年度の川角小学校の推計児童数は177人、学級数は特別支援学級2学級として9学級です。光山小学校の推計児童数は149人、特別支援学級2学級として8学級となっております。川角小学校と光山小学校を統合した小学校の推計児童数は326人、特別支援学級を2学級として15学級となる推計です。統合後の小学校の児童数は、現在の川角小学校が321人ですので、ほぼ同じ人数です。また、統合することで担任外の教諭が2人となる予定です。続きまして、毛呂山中学校区です。毛呂山中学校区は小学校と中学校の敷地がもろっ子橋で繋がっており、敷地を一体的に利用することができます。これは、施設一体型とほとんど変わらない立地となります。そこで、毛呂山小学校と泉野小学校を統合し、毛呂山中学校と毛呂山小学校の隣接した敷地・既存校舎を利用し、毛呂山小学校を大規模改修し、施設隣接型の小中一貫校で令和11年度の開設を目指します。令和11年度の毛呂山小学校の推計児童数は266人、特別支援学級を2学級として14学級です。泉野小学校の推計児童数は182人、特別支援学級を2学級として8学級となっております。

毛呂山小学校と泉野小学校を統合した小学校の推計児童数は448人、学級数は特別支援学級を2学級として17学級となる見込みです。統合後の小学校の児童数は、現在の毛呂山小学校の322人より多くなります。クラス数では、1年生から3年生までが2クラス、4年生から6年生までが3クラスとなる予定です。統合するそれぞれの小学校について、教育委員会の基本的な考え方として、毛呂山小学校と泉野小学校については、毛呂山小学校の歴史を継承していくこと。川角小学校と光山小学校については、川角小学校の歴史を継承していくことを考えています。学校名や校旗、校章、学校の沿革などは毛呂山小学校・川角小学校のものを継続していくことを基本方針と考えています。続きまして、こちら川角中学校の敷地イメージです。画面のピンクのところになりますが、増築校舎は校舎の西側・プール横のあたりを検討しています。こちらは職員室からのグラウンドへの視野確保などを検討した結果です。また併せて学童保育所を移設し、学童保育児に対しての放課後の居場所に対する安全確保を維持します。更に、小学校が統合することにより通学距離が長くなる小学生児童に対してスクールバスの整備をいたします。その発着所のイメージを、右下になりますがお示ししております。こちら今後の基本設計などで詳細が検討され決定されていきますが、まずは教育委員会で検討した結果です。続きまして、こちらは川角中学校の増築校舎のイメージになります。こちらは1年生から4年生までの利用する増築校舎で、5年生・6年生は既存中学校舎での教育となります。1年生から4年生までは、特別教室の利用頻度など学校での生活スタイルが似通っており、中学生との体格差などにより、ゾーニングなども考慮しての増築校舎の教室整備でございます。増築校舎にはオープンスペースなどの整備を検討し、多様な学びを促すことにより学びに向かう力の育成に努めて参ります。また、小学生4年生以下が理科・図工・音楽室の授業をする多目的教室を開始する予定となっております。こちらは多目的室の他の自治体のものになりますが、イメージとなっております。このような形で、多目的室を整備し、行っていきます。また校舎については木質化・木造などを検討して参ります。続きまして、こちらは川角中学校の既存校舎のイメージとなっております。小学5年生・6年生と中学生、特別支援学級の児童生徒が主に利用することになります。5年生・6年生の教室を中学校舎に整備することにより、中学校の教員に授業を補助していただく機会が増え、小学校高学年からの教科担任制の強化が図られます。また、小中学生が一緒に生活するための成長過程に応じた更衣室なども配置して参ります。中学校の教室を活用した教科センター方式を導入して参ります。教科センター方式とは、英語教室・数学教室のように教科ごとに教室が決まっている方式です。教員が教えるクラスに合わせて教室を移動するのではなく、生徒が受ける教科によって教

<p>石田課長</p>	<p>室を移動します。生徒が受け身で待っているのではなく、自ら学びに行くという姿勢が育まれます。また、専用教室には数学ならグラフ黒板を常設したり、英語なら英語の掲示物を掲示したり、英字新聞や洋書を並べるなど教科の学習に特化した環境を整えることができます。各教科の教室にすべての授業の用意が整っているので、チャイムが鳴って授業が始まると同時にその教科の学習に専念することができます。生徒の学びたいという気持ちが高まり、学力の向上につながることを期待できます。続きまして、毛呂山小学校・毛呂山中学校の敷地イメージでございます。毛呂山小学校と毛呂山中学校は図中央のもろっこ橋で繋がっており、敷地を一体的に利用することができます。施設整備ですが、毛呂山小学校を大規模改修をし、小学校校舎として利用します。また、学童保育所につきましては、入所児童推計により泉野小学校の児童も既存の毛呂山小学校内の学童保育所を利用し、学童保育児に対しての放課後の居場所に対する安全確保をいたします。さらに、小学校が統合することにより通学距離が長くなる小学生児童に対してスクールバスの整備をいたします。その発着所のイメージを左上に赤く塗ったところでございますが、お示しいたしております。毛呂山小学校の校舎イメージです。現在の使用状況と変わらず、1年生から6年生までの小学生が利用します。毛呂山中学校の特別教室及び小中一貫教室を利用し、中学校との交流機会を多くしていくため、A棟（南側）のみの大規模改修を行います。また、大規模改修の際にはコミュニティスペースを整備し交流の充実に努めて参ります。校舎の大規模改修については、このような形の木質化を考えております。毛呂山中学校校舎のイメージでございます。中学1年生から3年生までの中学生が利用します。小学5年生・6年生が授業を行う小中一貫教室を整備することにより、中学校の教員に授業を補助していただく機会が増え、小学校高学年からの教科担任制の強化が図られます。また、中学校の教室を利用した教科センター方式を導入することにより、生徒の学びたいという気持ちが高まり、学力の向上につながることを期待できます。こちらは、統合準備委員会、部会の案となりますが、統合に関わる色々なことに対して準備委員会を立ち上げ、スムーズに進められるよう努めて参ります。</p> <p>今後のスケジュールです。12月から1月にかけて編成計画(案)を説明し、ご理解いただけるように努めて参ります。1月から2月にかけてパブリックコメントを実施し、3月に計画の策定と考えています。また、令和11年度の開校に向け、設計、工事を順次進めて参ります。説明は以上となります。</p> <p>それでは、質疑応答に移らせていただきます。質問などの回答につきましては、申し訳ございません、担当の方着座にての説明というふうにご理解いただきたいと思います。挙手をいただければご指名いたしますので、お</p>
-------------	--

	<p>名前を名乗っていただいて、ご質問をお願いいたします。質問などございますでしょうか。</p> <p>はい、お願いいたします。</p>
A	<p>A といいます。令和9年に工事が始まるってことなんですけど、工事って大きな音が出たりするのかなって思うんですけど、在校生に対する配慮とかがあってあったりするのでしょうか。</p>
道地副課長	<p>工事については大きな音等も考えられる部分もありますが、基本的には他の工事も含めてなんですけども、工事に関しては基本的に夏休み期間中を使ったりというような形で、できるだけ児童生徒の方に不便のかからないような形を考えておりますので、その辺はご心配いただかなくても大丈夫かと思います。</p>
A	<p>分かりました。ありがとうございます。</p>
高沢教育長	<p>ちょっと補足します。実は川角中学校、毛呂山中学校は既に大規模改修を過去にしているんですね。私も校長で経験したんですけども、1期2期と2つに分けて2年間かけて大規模改修しました。その時には改修する部分を分けたんですけども、具体的には夏休みを使った短期間での工事で1学期の終わりを1週間程度早くする、それから2学期の始まりを少し遅くする。ということで夏休みの期間を少し長期に取ったりして、その分土曜授業ですとかそういう形で足りない、補わなきゃいけない授業時数はきちんと確保して工事を行いました。ですので、その経験を毛呂山町の方にはしていますので、長期期間の休みを少し長く取ったりすることで工事期間を確保して、子どもたちの学びには不都合が無いようにというところで安全性を図って過去に工事をしましたので、そういうところをうまく活かして工事の方をやっていきたいと思います。以上です。</p>
石田課長	<p>ありがとうございます。ただいまのご質問の関連や、また全く別のご質問などで結構です。お願いいたします。</p>
B	<p>B です。バスターミナルが作られるということで伺いましたが、現時点で全生徒に対してバスが出るわけではないと思うんですけど、どれくらいの距離の生徒がバスを使用できるのかお聞きしたいです。</p>
道地副課長	<p>説明の時にも、検討委員会でおおむね3キロ程度という形でお話させていただいたんですが、一応スクールバスに関しては、おおむね3キロ以上の</p>

	<p>行政区を対象に考えてございます。実際には、今考えているところは、川角中学校区から言いますと、目白台、東原団地、苦林、玉林寺。毛呂山中学校区に関しては、目白台、箕和田というところを考えています。また、併せて山間部の方の学童バス、スクールバスだけでなく学童バスも併用してというような形で考えています。</p>
B	<p>今の話だと、中学生が自転車で走っている地域あるじゃないですか。その場所でもバスが出ない可能性があるということですか。</p>
道地副課長	<p>そうですね、中学生に関してはまず、中学生が自転車で通っているところだとしてもそれが3キロ未満の場合には出ないという形にはなってしまいます。</p>
石田課長	<p>一定の基準をもって検討しておるところで、ご理解をいただきたいと思います。 お願いいたします。</p>
C	<p>同じ距離のことなんですが、中学生が2.5キロ以内の子は歩きなんですけど、2.5キロ以上の子は自転車なんです。それよりも小学生の方が歩くということになるんですよ。で、1年生の場合、3キロで歩くとなった場合、夏とか結構猛暑だったりとか、そういうのを考えてもらって配慮を考えてもらわないと。暑さに熱中症で倒れてしまったりとか。その辺を配慮して検討していただけたらなと思います。</p>
石田課長	<p>ご意見ありがとうございます。まずは一定の距離をベースとして検討の方はさせていただきます。そして、これから準備委員会を立ち上げて検討していくという中にも、通学路やスクールバスの関係の検討委員会もございまして。そういった中で、もっとより具体的な検討の方をしていきたいとは思っていますので、ご理解をお願いいたします。 他にございますでしょうか。お願いいたします。</p>
D	<p>Dです。令和11年度に開校してそれから新しい校舎の方に行くかと思うんですけど、それまで各小学校にいてその次の年度からいきなりポンって行く感じなんです。環境が一気に変わるじゃないですか。その辺どうなのかなと思って。</p>
土屋課長	<p>11年度に施設の方ができまして、そういったような形で環境が変わっていくところがございます。その前段階で、今も小中一貫教育というような形</p>

	<p>で進めていますので先ほどの写真等にも出ていたように、毛呂山小学校、泉野小学校の児童が毛呂山中学校の校舎の中に入って 1 日体験するというようなことを既に数回やっております。こういった回数をまた増やしていくというようなことも考えていますので、11年の前にいくつか交流をですね、小学生同士の交流も計画しておりますので、そういった形で少しずつ、いきなり一緒になるというよりは、施設的なものはありますが、子どもたちの交流の方は図っていきたいと思いますのでご安心いただければと思います。</p>
石田課長	<p>どのような些細なことでも結構です。気になることなどございましたら、どうぞご質問をしていただけたらというふうに思います。</p>
A	<p>バスの話なんですけど、あれは中学生でも、今中学生は自転車に乗っていますけど、3キロ以上離れてたらバスになるということですか。小学生だけの話でしたっけ。</p>
道地副課長	<p>小学生だけです。</p>
高沢教育長	<p>川中の校舎敷地イメージ、写真の方もあまり綺麗じゃないので見にくいかなと思うんですけど、先ほど説明した中で、この部分に小学校の増設校舎を建てる予定です。まだこれから色々な検査や、それから水回りとかそういうところを専門の業者さんに見てもらってこの場所で適切かどうかというのは、まだこれからなんですけれども、ここに建てます（スクリーン上を示す）。川角中学校はこのところに職員室がございますので、渡り廊下を設置して中学校校舎、小学校校舎、ここに武道場があるんですけども、武道場へ移動できるような渡り廊下を作ります。それと併せて、野球場の西側のところが活用されていない場所があるんですけども、ここにバスターミナルを作る予定です。ですからここにバスで来た子たちが集合して校舎に入るというような状態で、大きい通りじゃない、東公民館の方に行く通りの方からバスの方が運行するような形でいます。ですので、ちょっと見づらいんですけども、小学生が使用するような遊具のスペースを確保したり、学童保育所も、光山と川角の学童保育所の方をここに設置して子どもたちが遠く離れたところに行かなくても済むように考慮してここに整備させていただきたいと思います。</p> <p>毛呂中の方はここに水路があって小学校と中学校がちょっと隔ててたんですけども、もろっ子橋で橋を架けてありますので往来は道路を通らなくても行けるように安全な配慮をしています。左上、ちょっと赤いところなんですけれども、学童側の方の毛呂小の門扉があるところ、あそこ周辺をス</p>

	<p>クールバス、学童バスの発着所と考えております。校舎は別々なんですけども、先ほど土屋課長から説明したとおり、小中学生の交流、それから授業等の交流、先生方の交流もこの橋を使って行き来したり、両方の校舎をうまく使いながら授業の方もできるということになります。</p> <p>何か分からないことは遠慮なくお聞きになってもらって結構ですので、よろしく願いいたします。</p>
石田課長	<p>何かお気づきのことであるとか、ご質問などあったら、挙手をお願いいたします。</p>
高沢教育長	<p>もう 1 つ補足なんですけれども、教科センター方式という言葉が出てきたと思うんですけども、数学とそれから英語に特化した部屋。皆さんもご経験あると思うんですけども、中学校の時に理科は理科室で、家庭科は家庭科室という形で特別教室で授業を行った経験があると思うんですけども、それと同じように英語を学習する部屋、数学を学習する部屋というのを作っていききたいということです。そこに行けば数学、英語の学習に必要な教材教具等が揃っていて、それを使いながら学習の定着を図っていききたいということです。小学校の方でも既に音楽の専科の先生がいらっしゃったりとかしてるかと思うんですけども、国や県の方でも、算数、それから外国語、英語ですね、それから理科、それから体育。この 4 つの教科については専科の先生を置いて専門的に学習をしましょうというふうにして、その専科の先生を配置するという事で県の方からもそういう案内が来ています。ただ、すぐ理科の先生とか、体育の先生というわけには中々いかないので、その間は中学校の体育科や、数学科や、英語科や、理科の先生を小学校の方に派遣して、担任の先生と共に、ティームティーチングで授業をやっていくという方向で今後やっていきたいと思えます。もう既に毛呂山中学校、川角中学校の先生が小学校の方に行って、中学校の先生と小学校の先生と一緒に授業をやっているところもありますし、先ほどの授業などのように、中学の英語の先生が小学校に行って担任の先生と一緒にする授業も、既に少しずつ進めています。ですので、今後そういうところを見通して中学校の専科の先生が小学校でも授業ができるような、そんな仕組みをさらに整えていって、小学校の方の専科の対応なんかもできると良いかなということでその辺も視野に入れて進めていきたいと思えます。それが教科センター方式の活用の仕方の一部でもありますのでご理解をいただきたいと思えます。以上です。</p> <p>施設の件ですとか、通学路のこともいくつか出ましたけども、授業の内容等や、それから時間割はどうなんだろうとか、タイムスケジュールはどうなんだろうということでも結構だと思います。じゃあ課長、日課表の件だけ。</p>

土屋課長	<p>小学校と中学校で一緒になっていきます。小学校の方は1コマ、1時間が45分で行っていて、中学校の方は1時間が50分というような形になります。ただ、小学校の方は2時間目が終わった後に業間休みというような形で中学校よりも多く休み時間を取っています。中学生はそここのところでは外遊びはやらないんですが、小学生は外で遊んだりする時間となっているので、そういった時間のズレを逆に利用して、1時間目の開始が同じような形で、終わりは5分ズレてしまいます。2時間目の開始もちょっとズレてしまうんですが、2時間目の休み時間が終わった段階では丁度揃うようになります。3時間目のスタートは小学校も中学校も同じで。給食の時間がまたこれが小学校と中学校で時間が違いますので、中学生の方がちょっと短いんですね。そういったところから、5時間目のスタートも揃うような形になりますので、大きな時間のズレは無く、一緒に授業の方も行えていけるような形で計画しておりますので、そういったところも配慮しております。</p>
高沢教育長	<p>小学校ですと、給食、清掃、昼休みのパターンです。中学は、給食、昼休み、5、6時間目の授業をやって清掃ですので、清掃の時間がズレてしまうのですが、清掃は小学校のスタイルに合わせて、給食、清掃、で昼休み、で5、6時間目とすることによってズレがあったのが揃ってきます。川角中学校の方には小学校と中学校の子どもたちが学習しますので、今言ったとおり何回かのところで開始を揃えていけば子どもたちの授業等も支障なくできるということで、今そのプランで計画しています。毛呂小と毛呂中の方は施設が別々なので、チャイムを鳴らしてもそんなに支障が無いようなところなので、そちらは、そのカリキュラムに合わせても、今のバラバラの形でもってということで、これも準備の段階でカリキュラム等を検討するそういう部会も立ち上げますので、それぞれの学校で子どもたちに支障の無いようなタイムスケジュールを考えていきたいと思います。既にプランとして、こちらの方で持っていますので、それを提示しながらやっていってもらうような、そんな運びになっております。実際にやってみないってというのはあるんですけども、先ほどの教科の先生の派遣ですとか、それから一緒に学習ですとかってというのは、既にやっていますので、それをうまく検証しながらさらに良くするにはどうすれば良いかなというところも踏まえて、今後検討はしていきたいと思います。</p>
C	<p>素朴な疑問なんですけど。</p>
石田課長	<p>どうぞ。</p>

C	毛呂山の方は小学校と中学校で体育館が2つということなんですけど、川角の方は1つになるということでもいいんですよね。それで賄えるのかなっていうちょっと素朴なんですけど、疑問は。
土屋課長	時間割上、そういったところで体育の授業であったり、特別教室であったり、そういった部分というのは十分確保できております。川角中については、グラウンド自体は毛呂山中のグラウンドより全然広い状況ではあります。こういった増築校舎を作ったとしても全然毛呂山中と同じくらいの広さは取れている上で、この辺りは遊具スペースもあるんですけど、この辺りというのも小学校低学等が運動するにあたっては十分な広さもあります。あとは体育館もあるんですが、ここに武道場があります。川角中の武道場は毛呂山中の武道場よりも全然広い武道場ではありますので、そういった小学校の低学年の体育館で行うような体づくり運動であったりとか、そういった体育の活動も十分できるものもありますので、そういったところを活用していくことで、施設が2つある状況に近い形で考えております。
石田課長	他にご質問であるとか、素朴な疑問であるとかあるようでしたら、是非質問の方をお願いしたいと思います。 お願いいたします。
E	施設を共同で使う関係、放課後とか部活の時間と、小学校たちの学校が終わった後の遊ぶところの環境というのも、共同で利用できるようなイメージなんですか。
土屋課長	部活動の方がまずは優先されるかなというところがございますが、部活動についても、生徒数が減っているのでも部活動が減っている状況もあります。そこで使う部活動がどのくらいあるかというところで、先ほど言ったグラウンド全部を使っているわけではないので遊具スペースであったり、こういったところは小学生に開放できる状況ではあります。また、施設一体型ということもありますし、隣接もそうなんですけど、部活については、小学校の高学年はクラブ活動。ここは同じ校舎、同じ敷地というところで部活にも参加できるような形も考えておりますので、そういったところで子どもたちが活動できる場面等は多く設定していきたいと考えております。
E	それは川角中学校の方も、毛呂山の方も同じように。
土屋課長	はい、そうですね。

E	ありがとうございます。
石田課長	お願いいたします。
E	先ほど話の中で、それぞれの統合される小学校の歴史はそれぞれ毛呂小とかがあったら毛呂小を引き継ぐってというお話だったんですけど、切り替えの時期にあたって今まで泉野小学校の校歌を学んでいた人は突然切り替わるという段階が出てくるかと思うんですけど、そこら辺も今後色々な配慮がされてくるっていう認識で合ってますか。
高沢教育長	はい。
E	分かりました。
高沢教育長	統合の準備委員会の方で、学校の統廃合に関する様々な組織のことですか、あるいはPTAの組織をどうしましょうですか、そういうこともこの部会の中で、こちらの原案を提示しながら検討していただいて、スムーズに移行できるように前年、前々年くらいからそれに向けた整備をしていきたいと思います。あとは別の説明会では小学生の体育着の話も出ました。11年度に一齐に全部替えるのかっていうお考えもあったんですけども、11年度には新しい川角小、あるいは毛呂山小の体操着等になるかとは思いますが、それまで使っていた泉野小や光山小の児童さんには、上履きですか、あるいは体操着ですか、あるいは帽子ですか、そういうのについては移行するまではそのまま使ってもらって結構ですという形でアナウンスはさせていただいております。ですので、11年度に全て新しく切り替わるんじゃなくて、段階を追ってって、例えば4年生、5年生、6年生ぐらいまでは今までの小学校の物を使っても良いですよという、そんな形で経済的な負担がいかないように検討はしていきたいと思います。
石田課長	はい、お願いいたします。
F	Fといいます。令和11年の4月からということでもいいんですか。工事が遅れるということは無く、令和11年の4月から開校してそこに行くという認識でよろしいですか。先生方とかがって持ち越しって言うんですかね、まだ先のことから分からないんですけど、今いる既存の先生たちも何名かは異動ってという言い方はおかしいんですが、行くこともあるんですか。

土屋課長	<p>基本的には中学校につきましては、義務教育学校ではないので中学校も存在しまして小学校も存在します。小学校の方は2つの学校が1つに合わさる形になっていくと思います。中学校の教員については通常の人事異動というか、年度の切り替わりで当然移動する先生もいますし、新しく来る先生もいます。そういったことが普通に行われるかなと。小学校については2校が1校になりますので、そういったところでは人事異動等がございますが、それが全部新しい先生かって言ったらそういうわけではなくて、今でいうと泉野小、毛呂山小で例えばいる先生方で残る方もいるだろうし、いわゆる人事異動で別のところに行く方もいるだろうしというような形になりますので、全部替わるわけではございません。</p>
石田課長	はい、どうぞ。
B	一貫校になったら、音楽会とか運動会とかってというのは全員ですか。
土屋課長	<p>行事関係では、入学式、卒業式等も義務教育学校では無いので、小学校の入学式、中学校の入学式、小学校の卒業式、中学校の卒業式というようなことでそれぞれ考えています。音楽会であったり、運動会、体育祭につきましては、こちらも基本的にはそれぞれでやっていくところはあるんですが、色々な行事も場合によっては一緒にやっていくことも可能になりますので、これはもう学校の運営上の話にもなるので、そういうところは検討していきたいとは思いますが、人数によったりとか、保護者の方のご意見もあると思います。一緒に見たいという意見もあるだろうし、別々でというところもあると思いますので、そこは柔軟に対応できるように相談しながら学校行事ではありますので、良さを活かしながら進めていけたらと考えております。</p>
B	ありがとうございます。
石田課長	<p>たくさんご質問など出てまいりましたが、いかがでしょうか。開始をさせていただいて1時間15分ほど経っております。ご質問の方もたくさん出てきたのですが、もしこの後に、何かさらに聞きたいことがありましたらメールなどでもお問合せはできると思いますし、気軽に言ってくださればお答えしたいと思いますので、もしご質問が無いようであれば、ここで一旦この説明会の方は一区切りとさせていただきたいと考えますが、いかがでしょうか。</p> <p>それでは、教育長から一言お願いいたします。</p>
高沢教育長	お仕事の後のご家庭での団らんの時間かなとは思いますが、貴重なお

<p>石田課長</p>	<p>時間をいただきまして説明会をさせていただきました。本当にありがとうございます。まだ、ここはどうなんだろうなというところが、また出てくるかと思います。そういう時は何なりと、委員会の方にお寄せいただければ、こちらの方で対応させていただきたいと思います。これからさらに詰めていくっていう内容等もありますので十分なお答えにならなかったところもあるかとは思いますが、11年度開校に向けてしっかりとこちらの方も取り組んでまいりたいと思いますので、是非よろしく願いしたいと思います。今子どもたちが小中学校それぞれ6校で一生懸命頑張っているんですけども、小学校同士の交流もここで、また随分始まってきました。中学校区の中学を核にして両小学校、それから地域の様々な団体さんの方にも学校の中に入っていただいて教育活動を行っています。そういう面から言うと、本当に地域の皆さんの教育力っていうのが学校運営に対して大きな原動力になっていますので、またそういう方々にも、こちらの方から丁寧に説明させていただいて、この編成計画(案)の方、ご理解いただけるよう努力してまいりたいと思います。また、皆さんの方も何かご質問等ありましたら遠慮なくお寄せいただければと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。本日はどうもありがとうございました。</p> <p>では、以上をもちまして、毛呂山町立小中学校編成計画(案)に関する説明会を終了いたします。ご協力ありがとうございました。</p>
-------------	---